

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月24日更新

事務事業名		ことぶき大学事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	奈須 昌美
	基本事業	67	学習への参加機会の提供				所属班	生涯学習班	(内線)	2522
予算科目		会計一般	款10	項5	目3	事業連番10445	法令根拠	社会教育法	成果優先度評価結果	③
									コスト削減優先度評価結果	⑪
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	学習意欲のある高齢者に元気に学習をしていただく機会を提供し、社会参加を促進するために5月から3月まで御代志市民センター又はヴィーブル(高齢者教養講座と合同で)にて月に1回、様々なテーマの講演会を開催する。 学習内容は、「市長講話」「男女共同参画」「人権啓発教育」「金融」「健康」など幅広い学習内容となっている。 また、年に1回は研修旅行をしている。
【業務の流れ】	①事業計画、講師依頼、受講生の募集・受付 ②代表者会議の開催(年3回)、毎月の開催通知 ③会場の設営、講演会の実施 ④研修旅行計画、募集、実施
【主な予算費目】	報償費(講師謝金)、需用費(記念誌作成代)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 市長講話、肥後狂句の会、男女共同参画講演会、社会を明るくする運動講演会、生涯学習講演会、健康講座(薬草について)、研修旅行(福岡県)、合志義塾、ハンセン病講話、人権啓発教育講演会、文化協会(童謡組コンサート)、おじゃめの会		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 男女共同参画講演会、社会を明るくする運動講演会、人権啓発教育講演会、文化協会コンサート、健康講座、研修旅行、体験講座、他3講座
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:講座実施回数	回	
→イ:		
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
旧西合志地域の60歳以上の市民	人	→ア:旧西合志地域の60歳以上の市民
		→イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
ことぶき大学の受講生が増える	人	→ア:ことぶき大学の受講生(参加延べ人数)
		→イ:
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト全体計画～年度
受講生が増加することにより、社会参加している高齢者が増加することにつながり、高齢者の自立促進につながるから		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
①活動指標	ア	回	11	11	11	11	11	11	11	11
	イ									
②対象指標	ア	人	8,085	8,612	8,800	8,881	9,000	9,000	9,000	9,000
	イ									
③成果指標	ア	人	1,278	1,003	1,300	910	1,300	1,300	1,300	1,300
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	94	91	117	91	117	117	117
	(A)事業費計	(A)事業費計	千円	94	91	117	91	117	117	117
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
人件 費	正 規 職 員 従 事 人 数	正規職員従事人数	人	1	4	4	4	4	4	0
		延べ業務時間	時間	100	142	142	135	142	142	0
	(B)人件費計	(B)人件費計	千円	412	573	573	549	573	573	0
トータルコスト(A)+(B)			千円	506	664	690	640	690	690	117

事務事業名	ことぶき大学事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

※原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 参加者が固定していて高齢を迎えているから、今後は、新規加入者を増やす必要がある。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 現在は受講生が固定化する傾向があるため、22年度から受講生にアンケートを取っており、よりニーズに合った講座を計画することにより、新規の受講生獲得を目指したい。	☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 受講生からアンケートを取り、より魅力的な内容とすることで、新規受講生獲得を目指したい。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 旧合志地域の高齢者を対象とした「高齢者教養講座」が行われていて、これとの統合が可能である。	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 現在この事業にかかる費用は講師謝金と記念誌作成代で、これ以上の削減は難しい	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 旧合志地区の「高齢者教養講座」と合併すると人件費の削減ができる。	☐ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 講師謝金などは、受講生の会費でまかなうのが受益者負担にかなうものと思われる。	☐ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ことぶき大学は、60歳以上の市民を対象としていて、それらの方に、講師との交渉、講座の中身づくり、受講生への通知等全てを負担させるのは難しいので、講座の司会進行や出席者受付などを受講生に役割分担している。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

旧合志地区で「高齢者教養講座」を開催していて、これと合併することにより人件費や事業費の削減ができるが、受講者の範囲が合志市全域と広がるため交通手段を考慮する必要がある。また、受益者負担の観点から、受講者には一定の費用を負担してもらう必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

<